

令和元年度第1回山県市公共交通会議 議事録

日 時 令和元年6月25日（火）午後2時00分～

場 所 山県市役所 3階 大会議室

会長あいさつ

○宇野会長：山県市では、建設を予定しているバスターミナルを拠点に、公共交通を総合的に見直しています。岐阜高富線、ハーバス、昨年実験を行った岐阜大学病院線、市街地巡回線などの全路線をバスターミナルからスタートさせ、ターミナルを中心に市の新たなまちづくりに挑んできたいと考えています。

公共交通が市民と来訪者のどちらにも最善なものとなるかが重要ですので、皆様方のご意見等を伺いながら、新たな公共交通に向かって進んでいきたいと思っています。

バスターミナルは来年3月の完成を予定していましたが、進捗が遅れており、現在は来年9月の完成を予定しています。鉄道駅のない山県市において、駅の代わりとなる拠点にしていきたいと考えています。

報告事項1 前回からの経過報告

○事務局：（資料1の説明）

協議事項1 平成30年度決算について

○事務局：（資料2の説明）

○宇野会長：この件について、承認してよろしいか？

○委員：（異議なし）

協議事項2 令和元年度予算（案）について

○事務局：（資料3の説明）

○宇野会長：この件について、承認してよろしいか？

○委員：（異議なし）

協議事項 3 岐阜市コミバスの岐北厚生病院乗り入れについて

○事務局：(資料 4 の説明)

○宇野会長：この件について、承認してよろしいか？

○委員：(異議なし)

協議事項 4 地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について

○事務局：(資料 5 の説明)

○宇野会長：この件について、承認してよろしいか？

○委員：(異議なし)

その他 1 実証実験について

○事務局：(資料 6 の説明)

○山口委員（自治会連合会）：美山地域デマンド型交通の運行経費は、どのように試算したのですか？また、平成 30 年度経費と令和元年度経費での 1,000 万円の差はなぜですか？

○事務局：運行経費は、平成 30 年度実証実験でかかった 1 ヶ月分の経費を 12 ヶ月に換算したものです。令和元年度の実験経費は、減便や日数の減少により、人件費などが減少するためです。

今回の資料にある運行経費は、あくまで試算であるため、実際は増減すると考えられます。

○宇野会長：実証実験については、自治会や各種団体から改めてご意見をいただければと思います。

○伊藤委員（岐阜運輸支局）：来年 9 月に完成予定のバスターミナルを活用して、いかに公共交通を良くしていくかを検討していると認識しています。

昨年度から実証実験を行い、今年度は昨年の結果を踏まえて見直した内容で、新たに実験を行うということで、本格運行前に期間を設けて実証実験を繰り返すのは非常に良いと思います。

運輸局としては、資料 1-2 にある二次評価のとおり、新たなバスターミナルの乗継利便性の向上と待合環境の整備や実験結果を踏まえたより良い公共交通の構築を期待しています。

美山地域デマンド型交通については、デマンド交通は路線バスと違い、予約がなければ運行しないものであるため、住民への周知が不足していれば利用されないものです。どう利用するのか、利用してどこに行けるのかなどを最初の段階でしっかりと周知していくことが重要です。

デマンド型交通は、ヘビーユーザーと利用しない方との差が大きく出る交通とも言われています。予約に慣れてよく利用される方と予約を面倒と感じて利用しない方の両極端に分かれるため、現時点から周知を繰り返すとともに、利用する際のハードルが下がる方法の検討ができると良いと思います。

以上